

平成21年度
若手消防団員意見交換会
報告書



(財)兵庫県消防協会マスコット「消太くん」

(財)兵庫県消防協会

はじめに

近年、消防団員数は減少傾向にあり、団員の高齢化も進んでいます。また、会社勤めの団員の増加により、昼間の災害に対する対応が困難な状況も懸念されています。このように、消防団を取り巻く環境は年々厳しくなっており、時代の要求にふさわしい消防団づくりは、現在の大きな課題となっています。

この「若手消防団員意見交換会」は消防団活動の第一線で活動されている若手消防団員の率直な意見交換をとおして、今後の消防団運営のあり方を考えるきっかけとするため、平成15年度から、毎年県内各地区で実施しています。

本報告書では、平成22年1月から3月の間に開催した各地区の意見交換会の場に出た意見について、一部類似した意見の割愛や文言の加除修正等は加えていますが、その要約を記載しています。消防団幹部の方々はもちろん広く多勢の皆様にご覧いただき、今後の消防団の活性化、地域の消防力の強化に向けた取り組みに役立てていただければ幸いです。

最後に、県内各地区での意見交換会にご参加いただいた消防団員の皆様、会議の開催にご協力下さった各地区事務局の皆様に厚くお礼を申し上げます。

目 次

1	入団のきっかけ	3
2	普段行われている消防団の活動について	5
3	消防団に入って良かったこと、 不満に思うこと	7
4	入団促進について、消防団の 活性化について思うこと	9
5	改善したいところ	12
6	操法について	14
7	活動服について	15
8	女性消防団員について	15
9	その他	16

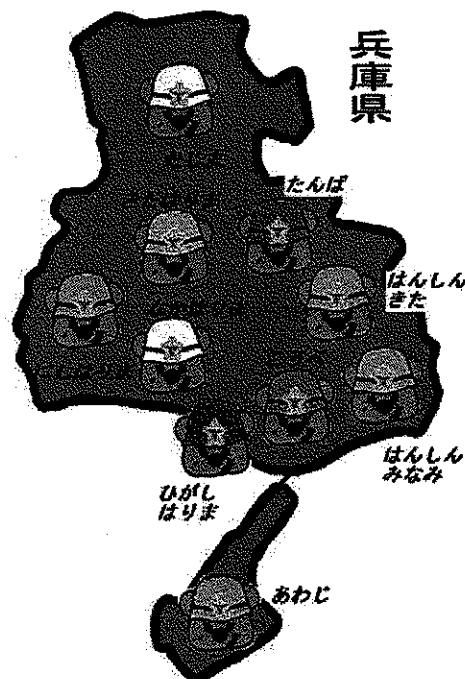
平成21年度若手消防団員意見交換会

1 入団のきっかけ

- ・一家に一人消防団へ入団するのが地域の慣例になっている。
- ・市役所職員で構成されている分団なので、仕事の延長のような感じで先輩に勧誘され入団した。
- ・勧誘に対して最初は断っていたが、自宅付近で火災の放送があった時に、多くの消防団員が駆けつけてくれたのを見て、自分も地域に貢献したいと思うようになり志願した。
- ・最初は名前だけでもよいから入団して欲しいと言われたが、現在は積極的に活動へ参加している。
- ・家に帰ったら分団長が来ておられ、ハッピーも届き、親のほうに先に了解していた。今は入団して良かったと思っているが、最初は年末警戒と出初式の2回だけの出勤だと言われていた。
- ・地元を離れて数年経っていたが、神戸で震災を経験し、ボランティアの一環として入団してもよいという気持ちがあった。
- ・将来は入団するものと思っていた。若いときは、自分の時間が取られるので少し嫌だったが、年長になるにつれ、消防優先の気持ちが高くなってきた。地域に貢献できればと思っていたので、入団できてよかった。
- ・分団長のスカウトで入った。少しでも地域の役に立てるならと入団を決意した。報酬や活動内容等の説明は、事前にきちんとしておくべきだ。
- ・地元の祭り中心の青年団に入っていたところ、勧誘があった。興味本位で詰所へ行き、訳が分からない間に入団していたというのが実態だ。
- ・地元に戻ってきたときに、入団の話があった。最初は分団長達が怖くて、すぐに辞めたかった。上下関係もとても厳しかった。しかし、ここ2～3年で

分団自体が若返りをし、仲間としての関係が築けるようになった。集うのが楽しくなり、節度ある関係を保っている。

- ・親の姿を見て、消防団に入るのが当たり前という感覚だった。今の若い世代は入団したがらないが、消防団の良さ、厳しさ、楽しさなどをきちんと伝えて、世代交代できる活動をしていきたい。
- ・地域の交流の場になっているので入団した。年齢差がある方々と付き合えることはメリットがあると思う。
- ・団長から勧められて入団した。最初は、消極的だったが次第に幼友達が入団し、仲間意識が芽生えてきた。活動だけでなく、色々な人と出会い、話せることもメリットだと思う。
- ・親せきに誘われて入団した。親せきの顔があるため、休まず、活動にも積極的に参加した。
- ・親せきや諸先輩方の勧めで違和感なく入団し、しんどい目にあった。
- ・子ども会、青年団引退後に消防団へのレールが敷かれている。



2 普段行われている消防団の活動について

- ・ 定期訓練、その他の訓練、防火パレードなど考えると、年間35回程度活動している。
- ・ 年に2、3回は出動区域内の地水利調査ということで新しくできた防火水槽の確認等の調査をしている。確認後は、住宅地図に記載して、どの団員が出動しても水利部署できるよう、体制を整えている。
- ・ 4月には、新入団員に対して、敬礼などの基本的な訓練をしている。
- ・ 年に1回、婦人会の方を中心に消火栓取扱いと、中学生との交流事業を行っている。最初は大変かと思っていたが、ゆくゆくは消防団の担い手となる中学生との交流ということで、団員も有意義にその日を過ごしている。
- ・ 連絡体制は、まず市の本部から分団長へ連絡があり、そこから各部長へ連絡される。電話に出られない団員もいるので、全員に情報が伝わるように一斉メール配信をするようにしている。
- ・ 火災のとき、消防署から詰所にサイレンとは違う音が鳴るようなくみになっており、その音が鳴ったら、団員が詰所に行き、火事のサイレンを鳴らして団員を集める。
- ・ 小・中学校を対象とした救急講習会で指導している。震災を経験していない子供達に命の大切さを訴えることが大切だ。
- ・ 毎年小学4年生を対象にファイヤーアドベンチャー（放水・ロープ・煙などの体験学習）を実施している。
- ・ 訓練・地域行事への協力（警備等）、ポンプ点検、防潮堤の鉄扉閉鎖訓練を毎月実施している。
- ・ 勤務先が近隣なので、平日昼間の火災等でも出動している。また、平日の小学校の防災訓練では、仕事の都合が何とかなるので、できる限り出動している。
- ・ 地域防災との連絡を密にし、各自主防災組織と訓練をしており、一人ひとり

の技術のレベルアップを図っている。

- ・年末警戒や出初式のほか、雑踏警備が多い。操法の練習は週に3日行っている。
- ・機械操作訓練を新入団の時に2～3回教養している。その後、すべて自分でやらせてみて、失敗して考えさせることにより理解してもらっている。また、操作だけでなく実際水を飛ばしてみ、ホースで飛ばされるような体験を試みるほうが覚えるようだ。



3 消防団に入って良かったこと、不満に思うこと

〔 良かったこと 〕

- ・分団員のほとんどが先輩や上司なので、職場のネットワークが広がった。
- ・何事にも熱心なところが気に入っている。
- ・新しい取り組みをしながら、楽しく活動できている。
- ・災害ボランティアを経験した時に、団員になって良い経験ができたと感じた。
- ・人の役に立ちたいという気持ちが育った。
- ・上下関係を学び、地域の交流も深まった。
様々な職種の方が、ひとつのことをやっていく喜びや、やりがいを味わえる。
- ・地域の行事に参加でき、社会人として認められるうれしさがある。有事の際は特に使命感が燃え上がる。
- ・地元の方と親しくなり、消防以外のお話も聞くことができ、祭りにも参加できて良かった。
- ・大きな災害等の時に、ありがとうと涙ながらにお礼を言われたとき、消防団活動をしていて良かったと思っだし、嬉しかった。
- ・私の所属分団は、昔ながらの地元の人が約半数近くいるため、他から見たら、偏見傾向にみられるかもしれないが、昔ながらの風習が受け継がれたりの良い面も多い。
- ・地域に顔見知りが増えた。

〔 不満に思うこと 〕

- ・勤続年数が増えても、ポンプ等の操作方法を知らない団員が増加傾向にある。
- ・いわゆる幽霊部員が増えてきている。
- ・毎月の定期訓練においても、無断で休む団員が増えている。

- ・団員のままなら入団を了承してくれても、将来的に幹部になることについては本人の負担になるらしく、結果的に入団を拒絶される。
- ・長い間団行事に参加していなかった人にとっては、次に参加しにくいようだ。
- ・分団を持っていない新興住宅地へも、近隣の分団が出動している。その地区の区長から依頼があったかどうかなど、経緯も分からないが、以前から当然のように行っていることなので、何の違和感も感じていないものの、不思議に思っている人もいる。
- ・メールでの連絡システムは、消防署で管理しているので、全員へ一斉送信の情報か、ある分団だけか、部長だけかが分からない。
- ・出初式後に新年会がある旨を通知すると、出初式自体も参加しなくなる傾向がある。
- ・観光業なので、土日に休みが無く、たまの休みも消防の打ち合わせや訓練などで外出してしまうと家族サービスも出来ず、妻から責められることがある。
- ・家にいるときにサイレンが聞こえないので、メール等の通信機器で伝えられるようになればと思う。
- ・行事等で、出役団員を指名するとき、若手団員の意欲が若干低いように感じる。
- ・高齢者が退団したくても次が補充できないため、退団できない状況。
- ・上からの説明や情報提供が無いので、自分が活動全体でどういう役に立っているのか判らない。これでよいのかも判らない。
- ・幹部は消防機器の取り扱いに精通しており、頼りにしているが、10年後には辞められてしまうため、若い者ばかりになったときのことが心配。
- ・火災はともかく、行事に出席する人、出席しない人が決まっており、限られた人員の中での分団活動になっている。

- ・団員のサラリーマン化、勤務地が離れている等の理由から、平日の昼間の火災は出動できないこともあり、出動できても人数が限られている。
- ・過疎化により、若い人が地元に戻ってきていない。

4 入団促進について、消防団の活性化について思うこと

- ・勧誘するにも地域に若者がいないくらい過疎化が進んでいる。人口が減っている中、団員定数を確保するのは難しい。消防団の魅力を考えるよりも、まずは人口を増やす取り組みを考えるべき。
- ・地域の子供会、老人会、婦人会、その他自主防災組織などと何かタイアップして行事をしたりして連携強化ができれば、いざ災害が起きた時でもうまく連携が取れて消防団も機能する。普段からそういう取り組みをすることによって、消防団に入っていない人にも消防団のことを知ってもらい、入ってもらいやすくする。
- ・年末警戒時のテープを地元の小学生に吹き込んでもらっている。子供達に消防団を認識させる一助になっていると考えている。
- ・中学生を対象にした加入促進に繋がる事業を行っています。秋の火災予防運動中の日曜日、中学生を詰所へ集めて消火栓の点検や消火器の取扱を教えるというものです。
- ・新興住宅地の区長さん等にコンタクトをとり、消防団の役割や活躍を話す機会を持って、入団促進を働きかけている。
- ・当市では、消防団員の他に協力員という方々がいる。日中で団員が火事に出られない場合、協力員さんに消火活動等を助けていただく。しかし協力員にも規定があり、その中の一つに消防車を運転できないというものがある。そのような部分を行政に改善していただくとか、公務災害補償をアップしていただくとかによって、団員確保に繋がると考える。

- ・自分の息子も消防団へ入れたいという思いはあるが、家庭の問題や仕事の問題もあり、なかなか理解を得られない部分もある。しかし、地域の活性化、子供達に父親の頑張っている姿を見せたいという思いもあり、活動している。
- ・郷土愛が薄れていっていると思う。自分が地域にどういった貢献ができるのかということをもっとたくさんの人が考えたら、自然に消防団活動も活発になると思う。
- ・新興住宅地からの入団者を受け入れていかなければ、人員確保が難しくなっている。そういう方を採用する場合の判断基準を示してほしい。
- ・計画では、2年後に自分の所属する班は統合の対象になっている。人員を減らさなければならぬかもしれない状況で、入団を勧誘してよいものか疑問。
- ・入団してもらっても、活動にあまり出てこない人もいる。私達は、分団長の面談後、団長からの面談も行い、団長の目に任せている。
- ・強制的に入団させられた、気が付いたら入団していたという強引さも必要なのではと思う。
- ・若い団員は会社勤めをしている者が多い。今欠員があるが、私の所属団は入団希望者がいた場合、先輩方と話し合っ決めて決める。その話し合いの折り合いが難しく、過去にも入団を断った経緯があるので、もっとよく話し合うべきだと思う。
- ・大学生が入団しているのをみて、地域において、学生達が消防団活動に参加して、人との繋がりや、活動を経験することにより、地元へ帰った時に消防団入団へ繋がるのではないか。
- ・消防団のホームページを作り、ブログを開設して、活動写真を掲載することで、誰もが簡単に見られ、消防団を身近に感じて貰えると思う。
- ・消防団と消防本部の違いを理解している人は少ないと思う。理解していないのに入団しませんかと言っても無理がある。消防団の役割や責任がどこまであるのかということ、どのようにして伝えるのかを、まず考えなければならない。

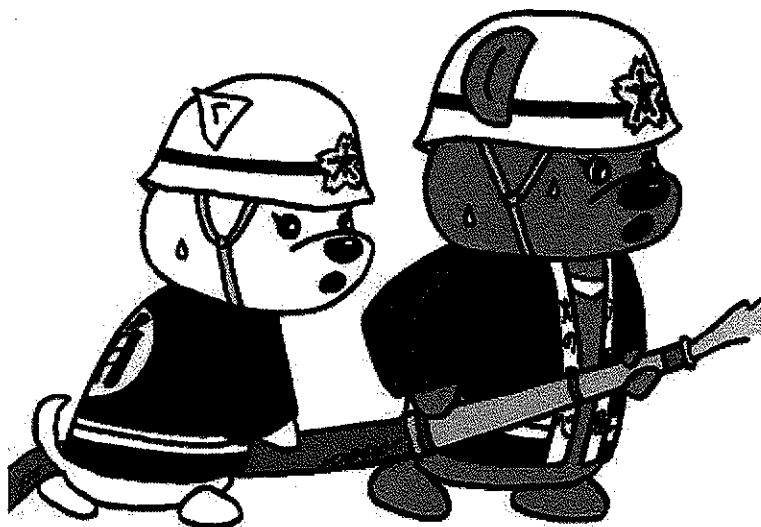
- ・例えば、団員募集の新聞広告を出すにしても、どの年齢層の人が、その新聞をどれだけ見ているのか、その効果がどこまで期待できるのかを考えねばならない。
- ・例えば、アニメや実写などを使うなどして、消防団とは何かというイメージをしつこいくらいにアピールすべきだと思う。
- ・消防団員の募集をまず、全国的にとりまとめる。各自が国に対してエントリーを行い、その後地域に振り分けるやり方もあると思う。各地域で行うには限界があると思う。
- ・消防団員確保を優先しすぎて、地域住民と接していない。知らない人が入った場合に地域の伝統等の特性が弊害となったり、団員同士の協調性・チームワークなどの問題が起こり得る場合がある。新入団員勧誘にあっては、地域の伝統を重視して行っている。
- ・地域の祭り・行事ごとに集まった若者に、親睦を図り消防団の活動をPRして、入団促進を図っている。
- ・若年層では、入団希望が少ないため、中高年者で地域に貢献しようと、やる気のある方の入団を促進している。
- ・村の祭りや行事ごとにおいて、子供たちに消防グッズの配布をする際に、若いお父さん達へ消防団に入り、地域に貢献しませんかと、入団促進を行っている。
- ・イベント・防火劇などの際に子供達に入団募集のチラシを配り、親に入ってもらえるように活動している。
- ・若い世代に消防団の活動を知ってもらい、その上で入団希望を募るようにしている。
- ・消防団を知らない人が多いので、アピールが必要。自治会の協力を得ることは重要。
- ・地域によって温度差があるが、地道な活動が大切。

5 改善したいところ

- ・年末の警戒時間を早めて欲しい。
- ・団事業の年間スケジュールは、できるだけ早く団員隅々までいきわたるようにしてほしい。
- ・年間スケジュールについては、突発的な大きな事業が入ってきたときのために、予備日も設けてほしい。
- ・機関員科研修においては、ポンプ車だけではなく、可搬ポンプについても同様のウェイトをいって講義してほしい。
- ・市の行事と支団の行事が重ならないように調整してほしい。
- ・組織再編により団員が減少する中で、できるだけ団員に負担がかからないように、活動日の集約を図って欲しい。
- ・火災出動する際、火災現場、防火水槽、消火栓の位置等、即座にわかるように車両にカーナビを設置するとともに、システムとして反映してほしい。不可能ならば、現行の一斉メールの中に反映できるか検討してほしい。
- ・消防団組織をいろいろな行事にも動員していることはいかがなものか。
- ・いわゆる幽霊部員にも団員報酬や退職金が支払われるのは不公平である。
- ・林野火災の際、両市の間でホースの口径が異なり、消防ホースの連携に戸惑ったことがある。現在もそのようなことがあるなら、統一しなければならない。
- ・消防団のことが、あまり認知されていない。仕事先での理解も必要で、消防団の存在の認知度を上げるようにしてほしい。
- ・自営業であれば、火災のときには仕事を止めて出動することができるが、会社に勤務している人は出動しにくいと聞いている。給料カットという話も聞いているので、そのようなことが改善されれば、もっと若い人も入団される

と思う。

- ・ 私たちの分団は、定年制があるため途中退団は少ない。ただ、本来の消防団の活動はできていないように思われ、消防団より1町1消防署という常備体制の充実を期待したい。
- ・ 校区面積が狭くて人が多いところは、人の入れ替えが容易で、校区面積が広くて人が少ないところは、いつまで経っても人の入れ替えができない。また、私たちの地域は、昼間は他地域へ働きに出ている人が多く、昼間の人口が少ない。たとえ職場に理解があって、出勤しても構わないといわれても現場に着く頃にはもう消火活動が終わっていることもある。そんな中、役員として4年も活動するのはつらいところがある。分団ごとの実情により、役員の任期も考慮することはできないのか。
- ・ 入団時の年齢制限があるため、入団希望があっても、入団できない場合があった。



6 操法について

- ・大会前の練習がきつい。
- ・隔年の実施となっているが、オリンピックのように、4年に1回でもよいのではないか。
- ・当番制の地区もあれば、予選を行っている地区もあり、取り組み方に格差があると感じる。
- ・団員の入れ替わりで、ポンプ操法を覚えていない団員が多く、練習に支障がでている。
- ・いつも同じ選手が出場しなければならない状況で、負担が大きくなっている。
- ・本部のプロの方に指導していただける機会を作ってほしい。
- ・消防庁のe-カレッジでもポンプ操法のビデオがあり、配布していただけると事前学習ができ、練習にも取り組みやすい。
- ・操法を全員が楽しめるように、練習風景を撮影し、分団独自のDVDを作成している。
- ・操法大会終了後の慰労会は、家族を呼び、全員で労いを行っている。
- ・30歳以上が主流で、固定メンバーになってしまう。
- ・競技性は高いが、競技にまでするものかと思う。
- ・操法に対しての取り組み方や関心度に地域差がある。
- ・練習に人が集まらないので大変。
- ・操法は、火を消す操作なので必要だが、消防署が一番で団は交通整理ぐらい。やってもホース補助程度。ホースのつなぎ方は勉強できるけれども実戦の機会がない。

- ・熱心な団員と、そうでない団員の温度差が激しいので、訓練機会の調整も難しい。大会のためか、技術取得のための操法か、どちらが重要なのか、現在は指導者として心の葛藤がある。
- ・操法では、自分のポジションを覚えるのが精一杯。
- ・操法は苦手だが、重要なものだと考えている。練習を通してやり遂げること。団結して一つのことに向かう事がいいと思う。

7 活動服について

- ・山火事で、山頂まで何度も往復しなくてはならず、支給されている長靴では疲労も大きく活動しにくい。職員と同じ特殊作業靴の支給を望む。
- ・法被のほうが良い。冬場の山火事を経験しているが、防寒にもなり、火の粉を落とすことから、プルゾンより法被のほうが活動しやすいと思う。

8 女性消防団員について

- ・主な活動は火災予防運動等の啓発活動・行事の司会、式典補助等。
- ・インストラクター資格を取得し、活動している。所属分団で防災訓練、祭り、イベントの手伝いもしながら、定期的に集まり研修会も実施している。
- ・女性消防団員の役目、役割をはっきり示してもらいたい。
- ・女性消防団員は、現場で消火活動はするのだろうか。私たちは現場で活動できる団員を欲しいわけで、現場へ出てこられない団員は必要ないと思う。家庭防火や消防団活動の広報という防災力の強化ということで、現在の定員以外で女性団員枠として増員できるのならよいが、現在の定員の中に女性を入れるのは、活動人員が減ることになり、困る。

9 その他

- ・ AED の設置を増やして欲しい。学校等に設置されているが、夜間閉鎖されると使用できない。コンビニとか、警察署、郵便局の本局など、24時間開いている場所に設置義務を課せばよいのではないか。
- ・ 統合される班の積載車が軽自動車になると聞いている。軽自動車の乗車定員は2名なので、災害現場に対応できないし、訓練等のための人員搬送もできなくなると思う。
- ・ 消防車をオートマチックにして欲しい。
- ・ ポンプ点検をしているが、2ストロークエンジンはうるさく苦情もあるので4ストロークに変更してほしい。
- ・ 入団しない人の意見をアンケートなどで調べてみてはどうか。
- ・ 普通救命士の資格証を、もっと立派なものにしてほしい。
- ・ 定数というのは、少数精鋭で常に昼間の活動ができる人員としてとらえるのか、または、大規模災害に対応できる人員を確保するというのであれば、定数増を考える必要もあると思う。
- ・ 冠婚葬祭時の弔慰金や見舞金について、私たちの団には規程があるが、他の消防団の実情が知りたい。
- ・ 行政機関のほうで、定数を減らして団員報酬をあげたといっても、一団員には分からない。私たちは普通に活動をして、活動後のお茶代を会計が支払ってくれているだけ。個人には全く入ってこないのに、改正された内容があっても分からない。
- ・ 新興住宅地には消防団が無く、火災があった場合は常備の消防に任せている状態。
- ・ 雪が降った場合、消火栓の位置を把握しなければならない。除雪も行わなければならないが、除雪の費用面について行政に考えてほしい。

平成21年度若手消防団員意見交換会実施状況

地区名	開催日	開催場所	参加団員数 (人)	階級内訳(人)		
				部長他	班長	団員
神戸	平成22年1月31日	神戸東急イン	18		1	17
阪神	平成22年1月30日	ホテル「ホップイン」アミング	16	4	3	9
東播磨	平成22年2月14日	稲美町総合福祉会館	15	5	4	6
中播磨	平成22年1月30日	姫路市防災センター	22	6	6	10
北播磨	平成22年2月12日	グリーンプラザ	17	13	1	3
西播磨	平成22年2月14日	伊沢の里	14	6	5	3
但馬	平成22年1月31日	豊岡市防災通信センター	11	2		9
丹波	平成22年3月7日	丹波市消防本部	14	7	3	4
淡路	平成22年3月3日	淡路広域消防ビル	15	5	2	8
合 計			142	48	25	69

(財) 兵庫県消防協会

〒650-0011

神戸市中央区下山手通4-16-3

TEL : 078-333-8073

FAX : 078-333-8076

URL <http://www.hyogoshoubou.jp/>